

昨年まとめた4項目の党改憲案を解説していく方針のようです。しかし、党内には、野党を刺激する内容があれば、国会での憲法論議に影響しかねないと懸念する冷ややかな声が出ています。

番組表題は「みんなで考えよう憲法改正のコト」。高村正彦前副総裁は、先の臨時国会の衆参両院憲法審査会で議論が行われなかったことを念頭に「プロレスの場外乱闘のようだ。本番はリングの中。憲法審で議論すれば、各党の意見が国民に分かる」と議論の活性化を訴えました。



さっそく、「国会での憲法論議に影響しかねないと懸念する冷ややかな声」に応えるかのように、高村氏は、憲法改正に反対する一部の野党を念頭に「左翼野党」などと述べました。「左翼野党の中には、また空想的平和主義が復活しつつあるような場面もある」と。高村氏は、自民党と社会党が対立したいいわゆる「55年体制」に関する解説の中で、当時の社会党の安全保障の考え方について、「抑止力があるから戦争になると考える空想的平和主義」と指摘しました。その上で「いまの左翼野党の中には、また空想的平和主義が復活しつつあるような場面もある」と述べました。

多国籍軍へ陸自要員 シナイ半島監視団 政府が派遣検討

政府は22日、エジプトとイスラエルの国境地帯での平和維持を監視する「シナイ半島多国籍軍・監視団(MFO)」の司令部要員として、陸上自衛隊員の派遣を検討すると発表しました。実現すれば、安保法制＝戦争法の一環である改定国連平和維持活動(PKO)協力法に基づく「国際連携平和安全活動」の初適用となり、国連が統括しない多国籍軍へ派遣する形となります。将来的に、米軍主導の多国籍軍参加への突破口とする狙いです。



今後、現地調査を実施し、要員の安全を確保できるかなどを確認した上で、最終的に派遣の可否を決定します。

内閣府国際平和協力本部によると、派遣はMFOからの要請で、「若干名」の派遣を検討。MFOとエジプト、イスラエル両国との連絡調整を担います。その平和協力事務局は、「我が国のMFOへのさらなる貢献が中東の平和と安定にっそう資する」と意義を強調し、司令部があるシナイ半島南部については「平穏だ」と説明しています。

MFOは1979年にエジプト、イスラエルが平和条約を結んだのを受け、82年から展開。12カ国約1700人の要員が参加しています。日本政府は88年から財政支援を行っています。

各地のとくみ

東京・大田 区長選挙、市民と7野党の統一候補 神田順氏(東大名誉教授)擁立

新しい時代に新しい大田区長を！オール大田の会(仮称)は、1月20日大田区内で「市民と野党の大田区長選挙懇談会」を開き、会場満杯の90人が参加しました。福石満氏(戦争させない1000人委員会南部事務局長)の司会で進められ、呼びかけ人の伊藤誠氏(東大名誉教授)があいさつで、市民と野党(立憲民主党、共産党、社民党、新社会党、生活者ネット、フェアな民主、緑の党)が共闘して大田区長選挙で神田順氏(東大名誉教授)を擁立してたたかうことになったことを報告、今度の大田区長選挙は必ず勝利させようと呼びかけました。野本春吉氏(大田革新懇事務局長)が、市民と野党が共闘してたたかうことになった経過を報告。市民と野党の7政党が協議を重ね、基本政策11項目と神田順氏を統一候補としてたたかうことになった合意内容について報告しました。



神田順氏は、自己紹介と基本姿勢4項目と重要政策11項目の説明を行いました。

参加者からは、「ワクワクしながら聞いていた」、「市民と野党の共闘でたたかうこと、今日、神田先生の話聞いて大歓迎でたたかいます」、「地方自治体に期待がもてる」、「大田区に緑が少ない」。

文化事業を充実してほしい。絶対勝ってほしい」、「建築条例を制定し、まちづくりを進めてほしい」など多くの発言があり、熱気のある懇談会となりました。

最後に井戸まさえ氏（立憲民主党）、岡田克己氏（共産党）、北澤潤子氏（生活者ネット）、鈴木智氏（社民党）、伊藤光隆氏（新社会党）、奈須利江氏（フェアな民主）、野呂恵子氏（緑の党）が統一してたたかう強い決意表明をしました。

懇談会後、同会場で神田順氏が記者会見を行いました。神田氏は、自己紹介と基本姿勢の4項目と11の重要政策、キャッチフレーズ「新時代！あなたと決めるまちづくり」の主旨説明を行い、質問を受けました。

＜東京革新懇 mailfax ニュース 857号より＞

神奈川・市民連合横浜 市民と野党と共闘で統一地方選と参院選に勝利を！

神奈川県内で市民と野党の共闘をすすめる「市民連合横浜」は19日、横浜市内で集会を開催。安倍改憲を阻止し民主主義を守るため、市民と野党と共闘で統一地方選と参院選に勝利しようと700人が集まりました。

主催者あいさつで事務局の小川道雄さんは、去年の沖縄県知事でのデニー知事の勝利で、市民と野党が結束してたたかい抜けば道は開けると教えてもらったと語り、「市民と野党がひとつに全力でたたかおう」と訴えました。

日本共産党、立憲民主党、自由党、社民党の各政党代表と候補者らがあいさつ。共産党は藤原正明県居基調が、畑野君枝衆院議員、県議団やちわう議員団・候補者と登壇し、市民と野党の



あさか由香参院神奈川選挙区候補は、原発ゼロ、改憲阻止、消費税増税ストップ、辺野古新基地建設を許さない—の4点でこの場にいる人たちと一致していると強調。「市民と野党が共闘して安倍政権を倒し、市民が望む社会をつくるため、私も頑張ります」と表明しました。

自由党の森ゆうこ幹事長・参院議員が特別講演。候補者や支援者の熱が波紋のように広がり選挙勝利につながると述べ、「熱く燃え上がって、でたらめな安倍首相を退陣させよう」と訴えました。

青森 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟が9条改悪反対を呼びかけ

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟青森県本部は22日昼、「ふたたび侵略戦争と暗黒政治を許すな」の横断幕を掲げて、青森市内で宣伝し、安倍政権が狙う9条改悪反対を呼びかけました。

日中も気温が上がらない寒さの中、参加者は「9条は世界の宝」と書かれたゼッケンをつけ、リレートーク。その一人は、「当時、戦争反対を訴えた人々が捕らわれました。青森出身の相沢良さんは、働く人の命と暮らしを守るためにたたかい、25歳で治安維持法の犠牲になった」と告発し、「日本を『戦争する国』にしないために、安倍首相が狙う9条改憲を力を合わせて阻止しよう」と声を張り上げました。

戦時中、学校へまともに通うことができなかったと当時のことを振り返り、「戦争はぜったいにダメだ」と署名した84歳の女性や、「応援している。風邪ひくな」「寒いのに大変だな」と参加者をねぎらい、足を止める市民が次々と署名しました。

参加者は、市民からの激励に「どんな時も声をあげないといけないから頑張ります」と笑顔で応えていました。

大阪 19日行動 京橋では街頭テレビ、高槻は駅頭で85筆！

京橋駅前では、毎月「19日行動」を行っているおおさか総がかり行動実行委員会は、1月18日（金）京橋駅で「街頭テレビ」を使って訴えました。行動には26人が参加し、たつみコータロー参議院議員もかけつけスピーチされました。

また、高槻駅前では19日、戦争させない高槻・島本実行委員会主催の「怒りの19日行動」には、参加者60人が参加し、署名数は85人を集めました。配布した独自作成のチラシは、辺野古土砂投入と勤労統計の虚偽を告発する内容を1面に、裏面は、朝日に掲載された坂本龍一さんの「沖縄を考える」を掲載しました。暖かい日で通行人も多く、足を止めて署名に応じる人も多くいました。



＜大阪憲法しんぶん速報版 No. 503より＞